

平成28年度第1回越谷市総合教育会議

日 時 平成28年8月25日(木)

13:30～15:10

会 場 越谷市役所第三庁舎5階 第5・6会議室

次 第

1 開 会

2 協議事項

(1) 越谷市の教育について

(2) その他

3 閉 会

出 席 者

市 長 高 橋 努

教育委員会

委員長 住 田 俊

委員長職務代理者 堀 川 智 子

委員 進 藤 秀 子

委員 荒 木 明 子

教育長 吉 田 茂

欠 席 者 な し

会議に出席した者の職氏名

【教育総務部】

教育総務部副部長（兼）スポーツ振興課長 矢 部 新 治

教育総務部副参事（兼）図書館長 小 林 彰 博

教育総務課長 山 梨 一 弘

生涯学習課長 福 田 博
教育総務課副課長 中 村 則 行

【学校教育部】

学校教育部参事（兼）学校管理課長 日下部 行 雄
学校教育部副参事（兼）教育センター所長 小 林 俊 夫
指導課長 岡 本 順
給食課長 田 川 啓 二

【市長公室】

市長公室長 瀧 田 賢
秘書課長 浅 見 修一郎
秘書課副課長 小 宮 崇

○事務局 それでは、定刻前ではございますが、ただいまより平成28年度第1回越谷市総合教育会議を開会いたします。

初めに、会議の招集権者であります市長よりご挨拶申し上げます

○高橋市長 改めまして、皆様、こんにちは。

総合教育会議が制度化されて、いわゆる市長部局と教育委員会の皆さんとの定期的なこういう会合を持つことになり、今年で2年目に入っているかと思いますが、市の全体の中の教育行政でもあるわけですから、教育は教育委員会だけということではなくて、市の私どももやはり責任を持って越谷市民の、特に子供たちの将来にわたる勉学、幸せを築いていくためには必要なわけでございます。市と教育委員会との定期的な懇談は言わずもがなでございますが、これまでも予算の編成等で十分教育委員会とは議論してやってまいりましたので、それについては、越谷市としては特に制度化されたからといって改まるものではないわけでございますが、これからもよりしっかりと定期的な懇談を含めて、よりよい教育行政を進めていただきたいと思います。

特に私どもは予算という大きな執行に携わる権限を与えられておりますので、教育委員会としてもこの予算についても忌憚のないご要望等を出していただいて、そして円滑にやっていきたい。特に私どもは教育委員会の学校教育施設の充実、こういったことが大きな課題になるわけでございますが、予算には限りがありますから、一気に、一様に全部できるということにもなかなか成り得ない面もありますが、それらについては計画的に進めていくということで、また皆さんとも優先順位ならぬ順序立てて取り組んでいくようなこともあると思いますが、それについても十分議論をして、意見の統一を図りながら進めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いを申し上げたいと存じます。

それでは、今日は限られた時間でございますが、お互いに教育委員の皆さんと懇談を深めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○事務局 それでは、会議に先立ちまして、大変恐縮ですが、会議資料の確認をさせていただきます。

○事務局 まず、お配りしました今日の次第でございます。さらに、左肩に資料1と記載されましたA3横の資料でございます。それと、本日はこの第2期越谷市教育振興基本計画、これを利用させていただく予定となっております。お手元の資料はおそろいでしょうか。

〔「はい」と言う人あり〕

○事務局 ありがとうございます。

○事務局 続きまして、協議事項に入る前にお諮りしたい点がございます。

昨年、この会議の発足以来、会議の招集権者であります市長が会議の議事を進めてまいりましたが、もとより会議の構成員が会議中は同じ立場で活発な意見交換ができるようにということで、今後会議の進行役を事務局が行っていくことで市長から提案がございました。この件につきまして、皆様からご意見をいただきたいと存じますが、いかがいたしましょうか。

〔「結構です」と言う人あり〕

○事務局 よろしゅうございますか。

〔「はい」と言う人あり〕

○事務局 よろしければ、以降この会議の議事進行役を事務局が行うこととさせていただきます。

それでは、早速でございますが、まことに恐縮ですが、本日は事務局、私、瀧田が進行役を務めさせていただきたいと存じますので、よろしく願いをいたします。

恐縮ですが、そちらに移らせていただきますので、申しわけございません。

○司会 それでは、改めまして、議事の進行を務めます市長公室長、瀧田でございます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、大変恐縮ですが、着座をして進めさせていただきます。

それでは、これより会議を進めさせていただきます。

本日の総合教育会議につきましては、非公開とすべき事項は今のところございません。したがって、公開とし、また傍聴につきましても許可したいと存じますが、皆さん、よろしいでしょうか。

〔「はい」と言う人あり〕

○司会 それでは、本日の会議は公開とし、傍聴を許可したいと存じます。

事務局、本日の傍聴者はいらっしゃいますでしょうか。

○事務局 今のところ3名の傍聴者がございます。

○司会 それでは、入場をお願いしたいと存じます。

〔傍聴者入室〕

○司会 それでは、協議事項に入らせていただきます。

協議事項の1つ目、「越谷市の教育について」でございます。

それでは、協議内容について、事務局、教育委員会から順次ご説明をお願いいたします。

○事務局 本日は、「越谷市の教育について」という議題につきましてご協議をいただきました

いと思います。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、平成27年4月から、市長は「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」を定めるものとされましたことから、本市では昨年4月10日に開催されました第1回総合教育会議においてご協議をいただいた上で、法律の趣旨にのっとり、「教育振興基本計画」をもって同大綱とすることを決定いただきました。

本市の教育行政につきましては、平成23年度から平成27年度までの5年間を計画期間とした「第1期越谷市教育振興基本計画」に基づき、10年先を見据えた上で、その前期5年間に、学校施設の耐震化や環境教育の推進など、多岐にわたる施策に取り組んでまいりました。今年度からは、平成28年度から平成32年度までの5年間を計画期間とした「第2期越谷市教育振興基本計画」に基づき、引き続き「生涯学習社会の実現をめざして」という基本理念のもと、総合的かつ計画的に教育行政を推進しております。

したがって、本日は、本市の教育行政がこれまで取り組んできた内容につきまして、主に第1期計画の成果を確認するとともに、第2期計画がスタートしてから約5カ月を経過したことから、「越谷市の教育について」の今後の課題等も含め、幅広いご協議をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

それでは、ご協議いただく前に、教育委員会事務局から第1期計画の進捗及び成果についてご報告をお願いいたします。

○教育委員会 教育総務課、山梨でございます。私のほうから、「第1期越谷市教育振興基本計画の進捗及び成果」につきましてご報告させていただきたいと思っております。

教育委員会では、平成23年3月に策定いたしました「いきいきとだれもが夢に向かって輝く越谷教育プラン—越谷市教育振興基本計画—」に基づき、「生涯学習社会の実現をめざして」という基本理念のもと、学校教育・生涯学習・生涯スポーツの3つの分野においてそれぞれの基本目標を掲げ、教育の振興に取り組むことで、着実に成果を上げてまいりました。

その間、ICTの普及やグローバル化の進展など、教育現場を取り巻く環境も大きく変化したことなどの背景を踏まえるとともに、第1期計画における成果・進捗・課題を踏まえた上で「第2期越谷市教育振興基本計画」を策定し、今年度は同計画に基づき各施策に取り組んでおります。

まず、第1期計画における各取り組みの進捗状況につきましては、総合振興計画の進行管理において設定いたしました指標の達成状況を踏まえながら、教育委員会の事務に関する点検評価においても、併せて検証を行ってまいりました。

資料1をご覧いただきたいと存じます。第1期計画策定時に設定した平成27年度目標値に対する、平成27年度末における達成率につきましては、指標全体の平均では92.6%の達成率となっており、全27指標のうち90%以上の達成率のものが20指標、約4分の3となっており、その他の指標につきましても、概ね70%以上の達成率となっております。

次に、各施策における主な成果についてでございますが、お手元の「第2期越谷市教育振興基本計画」の冊子16ページをご覧ください。

まず、学校教育におきましては、「基本目標1 生きる力を育む学校教育を進める」、「施策の方向1 自立して生きていくための基礎となる確かな学力を育む」では、「これまでの取り組みの成果」にございますとおり、ICT教育ではパソコンや大型テレビを活用した実践的な授業に取り組んだ結果、子供たちの情報活用能力や、自ら考えて発表する能力が向上したことや、特別支援教育では、特別支援教育支援員を毎年度拡充して配置したことにより、安心して学べる環境が整備されたことなどが挙げられます。

18ページをご覧ください。「施策の方向2 自立して生きていくための基礎となる健康な心と体を育む」では、子供たちの豊かな心の育成を目指した活動や、教育相談体制の充実に取り組むとともに、いじめ防止対策に関する審議会の設置などにより、多面的できめ細やかな体制の整備を行いました。

20ページになりますが、「施策の方向3 信頼される、質の高い教育を進める」では、大規模地震に備えた耐震化工事を平成24年度までに前倒しで完了したことや、普通教室へのエアコンの整備に着手したことなどが挙げられます。

その他、学校教育におきましては、教科書の単独採択地区として、適正かつ公正な採択事務を実施できたことも大きな成果でございます。

次に、生涯学習におきましては、23ページになりますが、「基本目標2 生涯にわたる学びを充実し、地域の文化を創造する」、「施策の方向1 生涯を通じた学習活動を推進する」では、複数の審議会等を生涯学習審議会に整理統合することで、効率的かつ効果的な生涯学習推進体制を構築することができました。なお、生涯学習審議会をはじめ、各審議会からは、本計画の策定に当たり合計159件の意見をいただくことができ、教育関係者や市民の意見を十分に反映した計画とすることができました。

また、図書館につきましては、平成24年6月に中央図書室を開設し、本館と北部・南部・中央の3つの図書室によるサービス提供体制を構築するとともに、平成26年9月には、南部地域におけるサービスの拠点とすべく南部図書室を移設し、整備を行いました。

26ページになりますが、「施策の方向2 芸術文化活動を推進し、伝統文化を継承する」では、平成26年度に旧東方村中村家住宅の復元整備を終え、生涯学習や学校教育におい

て、郷土の歴史を学習できる環境を整えました。

次に、生涯スポーツにおきましては、28ページになりますが、「基本目標3 生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる」、「施策の方向1 スポーツ・レクリエーション活動の充実を図る」では、勤労者スポーツ教室の開催などにより活動の促進を図り、教室や講座への参加者を大幅に増加させることができました。

31ページになりますが、「施策の方向4 健康ライフスタイルづくりを支援する」では、平成26年度から老人福祉施設への出前講座を実施するなど、高齢者の健康づくりの機会を充実することができました。また、障がい者スポーツ指導員を養成し、平成26年度から市独自でスポーツ教室を開催したほか、平成27年度には越谷市で初めて障がい者を対象とした大規模なスポーツ大会として「卓球バレー大会」を開催し、障がい者のスポーツ・レクリエーションの普及を図りました。

平成28年度となりますが、先日の8月11日には、本市出身、在住の星奈津美選手が出場したリオデジャネイロオリンピック競泳女子200メートルバタフライの決勝において、イオンレイクタウンを会場にパブリックビューイングを開催し、応援に駆けつけた越谷市民約350人とともに、星選手が偉業を達成する瞬間を共有するなど、スポーツを中心としたまちづくりにも積極的に取り組みました。

「第1期越谷市教育振興基本計画の進捗及び成果について」のご報告は以上でございます。

○司会 ありがとうございます。

ただいま説明がございましたけれども、皆様のほうからご意見等をいただければと存じます。何かございますでしょうか。

市長さん、何かございますか。

○高橋市長 今、最後のところでリオデジャネイロオリンピック大会で星選手が3位、銅メダル獲得、しかも4年前の大会に続いて銅メダルを2回連続してとれたということは非常にうれしいことございまして、甲状腺の障がいを乗り越えて頑張ってきたということは、本当に他の選手には見られない非常に頑張った結果だというふうに思っております、大変うれしく思いました。これが子供たち、小中学生に大きな励みになっていただければ大変ありがたいなど。そういう意味で、大いに教育界においても、これをいい模範として教育に生かしていただきたいと、こんなふうに今思っています。

○司会 ほかに皆さん、ご意見ございますか。

住田委員長さん。

○住田委員長 オリンピックの件は、私も非常に感動した場面が幾つかありまして、非常

に越谷市民としても誇らしく思っている次第なのですけれども、そのちょっと前に梶田先生がノーベル賞を受賞されたというようなことで、随分越谷市というものが全国的に注目される場所になってきているかなというふうに私は思っています。

いろんなことがこれから起こってくるかと思えますけれども、東京オリンピックをまたきっかけにして、いろんなことで越谷市、スポーツばかりではありませんけれども、そういった面で教育行政は、これからますます発展させなくてはいけないかなというふうに思っております。

○司会 ほかに皆さん、ご意見はございますでしょうか。

堀川委員さん。

○堀川委員長職務代理者 すみません。オリンピックつながりで、大変リオオリンピックでは国民もすごく盛り上がりまして、選手の皆さんの頑張りはもちろんなのですけれども、日本以外でもいろんな民族が、他民族、またいろんな世界の文化に触れるというよい機会でもあったのかなと思って、それが今度4年後に日本で、また東京オリンピックということで、子供たちにも身近にこういう機会が与えられるということで、非常に幸せだなと感じておりますし、よい機会ですので、何かやっぱり越谷市としても、今非常にプロスポーツのイベントの誘致などにも一生懸命されて刺激をいただいているところなのですけれども、さらに練習会場とかイベントなどの機会を越谷市でも開いていただいて、ともに貴重な機会を経験していただければいいなと考えております。また、市長さんにもいろいろご尽力いただくことになると思いますが、よろしく願いいたします。

○司会 ほかに皆さん、ご意見ございますでしょうか。

○吉田教育長 なければ、オリンピックについてですが。リオでは星さんの活躍があり、それからブラジル代表としてですが、本市在住の杉町マハウさんは、400メートルハードルで準決勝に残ったということなのですけれども、市長さんには今後、この後報告会の開催であるとか、あるいは市民栄誉賞表彰、こういうことに対して積極的にお取り組みいただけるということで、この場をおかりして大変感謝申し上げます。ありがとうございます。マハウさんには、条件を整えばということなのですけれども、市民体育祭で試走していただくようなことも考えております。

東京オリンピックに向けてというのは、重点施策にも書いてあるのですけれども、練習会場として本市の施設を使ってもらえるような働きかけを今後とも進めていきたいなというふうに思っているのですが、そのときには先ほど委員さんからもございましたけれども、市長さんにもお願いをしなければいけないところも出てくるのかなというふうに思っております。

あとは、スポーツ観戦機会の充実も図っていければというふうに考えておりますので、今回パブリックビューイングをイオンで開催させていただいて、市長さん、議長さんが応援されている様子が新聞にも掲載されておりましたけれども、ああいった形で東京オリンピックの開催のときにも、観戦できるような体制とか場ができればいいかなというふうにも考えております。

子供たちについては、梶田先生のお話もございましたけれども、ああいうところへ子供たちを参加させていただいて、お話を聞く機会を設けていただいておりますし、また星さんには、各学校が星さんと呼んで直接お話を聞くというような機会も設けていただいているので、委員長さんおっしゃいましたけれども、越谷市は本当に、私もちょっと挨拶の中で申し上げましたけれども、夢を持ち続けて夢を実現している、そういう大人から直接お話を聞けるということは、何よりも子供たちにとっていい環境なのかなというふうに思っております。今後ともそうした活躍された社会人が出た場合については、子供たちに直接お話をしていただくような機会をどんどんふやしていければというふうに考えておりますので、そのときはよろしく願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

今ほど住田委員長さん、それから堀川委員さん、さらには教育長からオリンピック関連のお話もございましたけれども、皆さんのほうから何かそれに関してご意見等、お話がございますでしょうか。

○高橋市長 まあ、あれだね、私はスポーツに限らず文化活動、この前新聞で出た大相模中と北中だっけ、吹奏楽部、あれも西関東大会に出るということで新聞に載っていたけれども、そういう一つの例だけれども、いろんな面でやっぱり子供たちに夢と希望を持って、それに向かって本当に頑張っていく。そして、その結果としてそういう入賞、上位でいくということは、やっぱりもっと広く多くの人に知らせる機会。新聞だけではなくて、いろんな機会を捉えて発表会を持ったり、いろんな子供たちに広めてほしいよね。

全部は、全員ができるわけではないけれども、やっぱりスポーツにしても、そういう文化活動にしても、一生懸命やった人たちをやっぱり褒め上げて、さらにみんなもそれに続いていくような方向性というのは、これはもう言わずもがなで、もう教育の基本になっているわけなのだけれども、ややもするとそのときだけで終わってしまう嫌いもないわけではないから、だからそういうのを機会あるごとに発表し、奨励し、またどうしてそういう成績を上げることができたのかというプロセスなんかも、できるだけやっぱりわかるようにしていったほうがいいよね。

私はいつも、前も言ったかもしれないけれども、中学生あたりはもう体力、エネルギーが余っているのだから、そのエネルギーを十分に発揮させるような条件が十分できているのだろうかということ、私はいつも感じるわけ。それは先生だけではなくて、地域でのクラブとか社会活動も、これは求められる話なのだけれども、だんだんと市民の平均年齢も上がっていくし、指導者の育成もしていると思うのだけれども、指導者の育成なんかももっともっと進める必要があるなど。これは教育部門だけではなくて、生涯学習の一つの中で進める必要があると思うのだけれども、どうも指導者がまだまだ不足しているのではないかなど。指導者と言わないまでも、地域のいろんな団体のリーダーが不足していると。リーダーがいれば、そこに10人、20人集まって、しっかりとした指導ができていけるわけです。

やっぱり中学生あたりは、もう一にも二にも三にも指導者にかかっていると、こう私は考えています。能力はみんな持っていると思うのだけれども、その能力を引き出すのはやっぱり指導者なのだよね。その指導者、リーダーがいて、また今度はリーダーの質が今度は求められていくのだけれども、そういった順を踏まえて、まずリーダーをつくる。それから、リーダーの質を高めていくと。これがやっぱり学校を中心にしながらも、地域でもつくっていく必要があるのだよね。何事をするにも、やっぱりそういうリーダーが大事だよね、ということを常々考えていますのでね。

- 吉田教育長 教育委員会でもスポーツリーダーバンクというのがある、これについて活用を図っているのですけれども、残念ながら悲鳴を上げるほど活用が図られているという状況ではございませんので、市長さんがおっしゃったようにリーダーバンクの質の充実を図る、登録数を増やしていくとか、あるいは現在実際に活躍されている人にリーダーになってバンクに登録していただくというようなことも含めて、内容を充実していかなければいけないというふうに考えているのと、その活用をまたやっぱり増やしていかなければいけない。

堀川委員さんも新栄中で剣道を教えていただいておりますけれども、外部指導者の活用についてはかなり充実が図られてきているのかなという感じがいたします。いずれにいたしましても、市長さんご指摘いただいたようなことは教育委員会の課題として受けとめておるところです。

- 司会 今、市長のほうからオリンピック関連の話から、中学生の指導員等の話のほうに移ってまいりましたけれども、それに関して進藤委員さん、荒木委員さん、何か思いやお考えがございましたらご発言いただきたいと思いますけれども。

[発言する人なし]

○司会 ないですか。特になければいいですが。

ほかに何か皆さんのほうから。

○高橋市長 今回の関連で、リーダー養成だとか、著名な人たちを呼んで推進するような講演会とか何かというのは、今年間どのくらい入れる、教育委員会のほうで。リーダー養成とか。

○吉田教育長 生涯学習とかスポーツ振興で、ですか。

○矢部副部長 年に1回は必ず2月に著名人を呼んでやっていますけれども。

○吉田教育長 体育賞表彰の後に。

○矢部副部長 そうですね。

○高橋市長 室田選手を呼んだのは、プロの、あれは何だった。

○吉田教育長 昨年度、体育賞のとき。

○高橋市長 あれは昨年度か。

○吉田教育長 ええ。体育賞を表彰した後に、例年室田先生と同じような、匹敵するような方を呼んで、ソフトボールの女性の監督なんかも。

○矢部副部長 宇津木さん。

○高橋市長 生涯学習もやっているのでしょうか。

○福田課長 生涯学習になりますと、生涯学習フェスティバルで、有名な人を呼んだりとか、また市民大学講座、あれが12回講座なのですからけれども、2回ほど有名な先生ということで、ちょっと謝金の張るような方をお呼びして実施しております。テーマはさまざまなのですけれども、生涯学習推進会といった団体さんに、どういった先生がよろしいかというのを意見を聞きながら選考しております。

○高橋市長 何かマンネリ化しないか。

○吉田教育長 スポーツ団体にしろ、越谷は盛んだと思います。文化団体もかなり盛んで、それぞれの団体の活動状況なんかも非常にいいものがあるというふうに考えているのですが、そこで例えばそういうところで自分が獲得した成果あるいは知識、そういうのを活用する場面というのですか、その部分は若干課題があるというふうに考えているのです。だから、バンクに登録はしたのだけれども、ではそれが必ずしもいろんなところで活躍できているのかというと、スポーツボランティア制度にしても、あるいは生涯学習のほうもリーダーバンクですよ。

○福田課長 両方ございます。

○吉田教育長 それにしても、若干やっぱり活用の部分がというふうに思っているのですが、いわゆる生涯学習といってもそういう自分が得た成果を社会に還元する、そして持

続的な、持続可能なそういうサイクルが実現されているというような、いわゆる循環型生涯学習社会と呼ぶのですけれども、そういったものの構築は目指しているのですが、まだまだ道半ばというところかなというふうに思っています。

指摘されているとおりのので、ただしそれに向かってやっぱりいろんな施策を充実させていかなくてはいけないというふうには考えているところなのですけれども。

- 高橋市長 施設の、越谷は進んでいると言われているのだよな。地区体育館だとか、地区センターにもある。やればできるし、とにかく東西南北、中央に体育館と地区体育館があるので。だから、施設の、結構あると思うのだけれども、それをどうやって活用するか。一にも二にもリーダーが積極的に活用しようというところを集めてやるような形になればいいのだけれども。

また、一面ではこんなことも聞いたことがあるのだけれども、いろんなボランティアでやっている、事故があったりなんかするとどうするのだというようなことでリーダーなんか責められてしまって、そこまでやる必要があるのかというような感じで尻込みするようなケースもないわけではない。とにかく子供の親がうるさ過ぎると。任せようで任せられないで、監督だとかコーチだとかに事故があったらどうするのだとか、あるいは他流試合なんかへ行けば送迎があるでしょう。送迎のとき誰が出るのだと。親も協力してくれればいいのだけれども、なかなか協力してくれないで、一部の人が四苦八苦して苦労してやっているというような面がなくはないのだよね。だから、そういうリーダーと協力者もまた必要なのだけれども。

- 吉田教育長 市民体育祭なんか中央大会と、そういう地区別対抗種目等も含めて、地区でやっているもの、中央でやっているもの全部ひっくるめて、約2万7,000人参加しているというふうに統計上押さえているのですけれども、さらには朝6時ごろになると市内のいろいろな場所でラジオ体操、ハップちゃん体操やっていますね。365日毎日、雨の日も雨の落ちてこないようなところでやっておりますし、また日曜日の朝、土曜日の朝なんか行っても、緑道で、越谷は大分整備されているので、大吉の調節池の周りもそうですけれども、用水の緑道なんか使ってウォーキングや散歩にいそしんでいる人もたくさんおられます。

それから、各体育施設等も、全部というわけではないのですけれども、とり合いになるような施設もあります。そういうところでは、かなり充実はしているというふうに思うのですけれども、指導者の講習会というのもスポーツ少年団なんかは独自でやっているのですよね。そういうようなところもあるのですが、しかしリーダーバンクの活用状況等を見ると、まだまだ考えていかなければいけない状況にあるというふうに今捉えてお

ります。

また、いわゆるスポーツに親しむ年齢層というのにも若干の……

○高橋市長 ちょっと上がってしまうからね。

○吉田教育長 ええ。そういうところも確かにございます。年齢層にちょっと偏りがあるということもあるかと思えます。

○司会 どうぞ、皆さん、意見交換をぜひ。

○住田委員長 今の問題もいろいろとあるのですけれども、今の問題で言いますと、市民の中のかなりスポーツだとか何かでもってリーダーをやられているような人を、クラブ活動の指導とかに利用していく方向が何とかできないかなと思っております。というのは、余りにもいろいろ聞きますと、教員の負担がとにかく異常なくらいに大きいものがあるわけですから、そうやって市民の中でかなりの方がいますので、そういう人をできるだけ中学校とか小学校のクラブ活動に利用できないのかなと思っております。

○吉田教育長 クラブ活動や部活動なんかでは特に華道あるいは茶道、さらには箏曲などでは、これらの協会の方々に講師として学校に来ていただいて指導していただいているという、いわゆる外部指導者という形ですけれども、指導していただいている。また、運動部についても外部指導者はかなり、何人ぐらいいるかな。

○岡本課長 今年度は、8月1日現在で48人の方に指導していただいております。

○吉田教育長 48人。いわゆる体育協会とかレクリエーション協会からの推薦を受けたりもしていたりもするんだよね。

○岡本課長 ご紹介いただいていることもございます。

○吉田教育長 推薦という形、紹介をね。さらには、スポーツのリーダーバンクに入っている方も当然いらっしゃるのかな、中にはね。そういうスポーツ振興課のほうでもスポーツリーダーバンクに登録されている方が積極的に部活動の外部指導者として入っていけるようなことも、あわせてそれも推進していこうということで考えているところなのですけれども、そういう形で進んできてはいるのですけれども、もう少しきちんとした体制の中で進めていくということも必要になってくるのかなということだというふうに考えております。

指導者の質の問題もあるのですけれども、幸いなことに外部指導者でちょっと問題があって教育委員会に報告が上がっているなんていうことは、ゼロとは言わないけれども、ほとんどないよね。

○岡本課長 それぞれの方熱心にやっていただいております、逆にたくさんやっていただいておりますために、一応謝金等もご用意をさせていただいておりますが、そのあ

たりのところでちょっと申しわけないなというふうには出てくるものはございますが。

○高橋市長 外部指導者48名と今聞いたけれども、これは多いのかい、少ないのかい。

○岡本課長 年度の途中でさらにお願いをしたりすることがあるのですが、ここ数年50名前後で推移しております。

○吉田教育長 私が現場にいたころは、外部指導者ゼロでしたね、自分のいた学校は。だから、非常に今は恵まれた状況にある、私のころから比べれば恵まれた状況にあると。私のころのほうが、もっと子供の数は多かったですから、部活数も多かったわけですがけれども、それが他市と比べてどうなのかというようなことになると、また状況が違ってくるかなと思います。

○高橋市長 中学校だけでも15校あるわけでしょう。単純に見ると、何人でもないではない。

○吉田教育長 まあ1人から3人だけれどもね。先ほど言ったように、私のころはゼロでしたので、そういうところから比べると外部指導者の数が増えてきているかなというところなのですが、ただ一気に増えない理由としては、いわゆる部活動というのは、さっきも出たけれども、ただ勝てばいいというところではございませんので、いわゆる教育の一環としてやっているところがございます。狙いは、そういう人間関係の向上、構築を図ったり、あるいは自己肯定感を高めたり、さらには本来は生徒の自主的、自発的な参加によって行われる中で、連帯感とか、あるいは責任感の高揚を図っていくという、単に体力の向上とか技術の向上だけではなくて、全人的な教育を施すための場として、いわゆる教育の一環として、部活動を位置づけて学習指導要領でもいるわけですので、そういったところの趣旨を理解していただけないと、なかなか学校としても外部指導者をお願いするということがしづらくなるということもありますので、単に技術を持っていれば誰でもというわけではないのかなというふうなところがあるので、ですので外部指導者も校長の指導のもとにということをお願いしているんですよ。

○岡本課長 はい。

○高橋市長 今、先生方の平均年齢はどうなっている。

○吉田教育長 平均年齢は、今大分下がってきて四十二、三かな。

○岡本課長 43ぐらい。

○吉田教育長 もう小学校は30後半になる勢いですね。

○高橋市長 なぜ聞いたかという、やっぱり指導者といえども生徒と一緒に走ったり、みんなと走ったり、そうすると先生がついていけないような状況にもなりかねない。かつてそういう方向が言われたよね。高齢化で、小学校なんかは女性教員が多くなったと

というようなことで、なかなか部活動とか、そういう指導もままならないような状況になったというようなこともかつてあったよね。

だから、教育長が現場にいるときは、みんな若い先生が結構ばりばりやっていたのだと。それがだんだんと高齢化してきて、先生方が直接、指導できなくなるよ、何とかするよとのことで、外部指導者というのが出たのもそこからだと思うのよね。外部指導者、外部のそういう技術的なすぐれた人たちを借り入れてやろうということなので、進めてきたと思うのだけれども。

○吉田教育長 教員の年齢構成というのは、本来ならある程度一定のほうがいいのですが、なかなか採用の関係とか、子供の数が急に増えたりとか減ったりとかという関係で、一定ではないですね。したがって、市長さんがおっしゃるように高齢化というか、平均年齢が非常に高い時期もございましたので、そういうときにはなかなか運動部に限って言えば顧問になりにくい、あるいは顧問を探す、そういう運動部に充てる状況が難しい状況になっていたことも確かにあったということですよ。そのときに、そういう外部指導者を導入したと。では、そのときだけ外部指導者が多かったかということではなくて、傾向としては徐々に増えてきているかなというところだと思います。

○司会 ほかには皆さん、ご意見ございますか。

お話の方向が、オリンピックから外部指導者のほうに、スポーツのほうにすっかり移っておりますけれども、ほかにも教育委員会の説明いろいろな話もございましたので、その中でももしございましたら、どうぞご発言いただきたいと思います。

○住田委員長 せつかくの機会ですから、教育委員会だけでは解決できないなという感じがするものを。これから大きな問題になってくるなと思うのが貧困学童といいますが、これは越谷の地内でもちょっと報告聞きますと、今2万5、6千人ですか、児童生徒がいるわけですが、5,000人も何らかの支援を要するような家庭の子供がいるというふうに聞いているのですけれども、これはもう大変な問題だなと。

たまたま私、この前の日曜日に静岡の中学校の英語の先生、それから小学校の先生に、これは人数少なかったのですけれども、会う機会があって、ちょっといろいろ話をしました。静岡あたりは、もう大変な問題になっていて、はっきり言うとひとり親といいますが、そういうような子供とか、それから朝食を食べてこないというのですか、食べさせない、あるいは食べられないというような子供がすごく多くて、それで朝食をとったかどうかわからないかということアンケートをとったら、そんなことをやらないでくれと、うちは2食式だからと、そういうことまで言われてしまったと。非常に学校現場の先生が困っていると。

では、子供は食欲がないかという、そうでなくて、もう学校給食を、余ったものがあつたら、おかわりしたくてしたくて仕方がないのだというような話まで出ています。先生方はすっかり困っているのだというような話まで聞いたのですけれども、越谷も恐らくだんだん、だんだんそういう児童生徒というのが出てくるのかなというふうに思っているのですけれども、これはだけれども、教育委員会だけの問題ではないのではないかなと。

○高橋市長 今、生保の人はここにいないからだけれども、生保を受けている人は、約3,000世帯ぐらいあるのかな。人数は4,000人ぐらいかな。直接の児童生徒、数はちょっと一覧を見てみないと定かではないのだけれども、生活保護指導者、チームリーダー的なものを含めると40人からいるのだよ、生保担当者。越谷も、今増加するのは少し鈍ってきたようだけれども、でも生活保護が相変わらず多いということだと思ふのだよね。

それと、教育委員会のほうでは準要保護が5,000人いたっけ。

○岡本課長 20%ぐらいです。

○高橋市長 20%では5,000人超えているな。

○岡本課長 今現在、申請そのものが大体5,000人で、所得等の状況からの認定、非認定はございますけれども、大体それぐらいだと思ふのですけれども。

○高橋市長 これは本当に、いわゆるひとり親家庭がふえたり、生活が厳しい世帯がふえてきているというのは事実なのだよね。これは国も言っている割には、なかなか解消できていないのだよ。その負担も意外と大きいのだよね、市としても。

○日下部参事 市長、ちょっとよろしいですか。

○高橋市長 はい。

○日下部参事 2016年のあしすとというのを我々いただいているのですけれども、その統計によりますと、生活保護被保護世帯が、平成27年4月1日現在で、世帯数が2,820世帯、人員にしますと3,948人というふうな状況でございます。保護率は1.18%というふうなデータ結果になってございます。

○吉田教育長 教育のほうでも全国的に、こういう経済格差あるいは貧困家庭がふえてきているというようなことが問題視されて、いろんな対策をとられていますけれども、県のほうでも福祉部のほうで中心になって、いわゆる受験勉強の支援をするというような形に取り組んでいたのを、それを市におろすということで、本市でも福祉部中心に何市かが連合して。それで、そういう事業団体に依頼して受験勉強の支援をするというような形をとっているのですよね。

ただ、いろんなほかの県や市の取り組み状況を見ますと、やっぱりそういう家庭

の子を集めてやるのだというのは非常にやりにくい。やっても、なかなか現実集まらないというようなところもある。しかしながらやっぱりそういう機会を何らかの形でつくっていくような、窓口をもっと広げてもいいのですけれども、そういう状況をやっぱり今後考えていかなければいけないのかなというふうには、私個人的には思っているのですが、実際に学校ではなかなかそういう家庭に限ってというふうなことでは、先ほどおっしゃったようになかなか難しい。しかし、中には、地域の方をお願いをして、そしていわゆる勉強会を開いている、そういう中学校もございます。

ですから、そういったものが地域の中でつくられていくという方法も、これから模索していかなければいけないのかな。いわゆる経済状況、格差がどういうふうに関後広がっていくのかということも踏まえてやっていかなければいけないということも考えているところですが。

○高橋市長 結果として行政が求められてくるからな。

○吉田教育長 そうですね。

○高橋市長 社会のひずみがこういう形で出てきて、教育にも影響あるし、これはもう人権問題にもつながっていってしまうし、自治体がやっぱり最終的には援助していかなくては行けないと、こういうことになるのだよ。

○吉田教育長 越谷でも2地区ほど「こども食堂」というのをやっていらっしゃいますよね。ですから、これはやっぱり考えていかなければいけない大きな課題の一つだというふうに思います。

○高橋市長 そこまで来たかと私は感じているのです。

○吉田教育長 そういうことですね、はい。

○高橋市長 欠食児童がふえてしまったら、集めてそういう、お年寄りがかつてやっていただけでも、今もやっているけれども、会食事業を、あれを子供にまで今度は対象としてやるようになってきた。深刻な課題だよな。

○吉田教育長 朝食の欠食率は調査したのだよな。

○田川課長 はい。本年度、5年に1回の朝食につきましてアンケートをとりました。欠食率ですが、小学生で毎日食べるというパーセンテージが91%、中学生におきましては86.1%。二、三日食べないことがあるということでは小学生6.2%、中学生10.3%です。

○吉田教育長 幾つ。

○田川課長 86.1%です。四、五日とか、全然食べないという児童・生徒が4%ぐらいです。小学生でも中学生でも同じぐらいで、96%から97%は朝食を食べていることになります。完全給食にしてから、全然食べない家庭が、小学生では1.7%、中学生では2.0%

ということで、前回23年度に調査したときよりも、小学生では0.5ポイント増加の傾向がありますが、中学生におきましては、0.3%減少しているという結果が得られています。

○吉田教育長 その調査に限って言えば、それほど顕著にあらわれているということではないということだよ。

○高橋市長 さまざまな要因がそこにはあるようだけれども、肝心の基本的な食事をとらないというのは一番問題なのだけれども。とらないのか、とれないのか。お母さんが夜働いていて、もう子供を余り見ないというようなことも、具体的な例としてはよく社会的に言われるのだろうけれども、そういう人を見ているわけではないと思うのだけれども。

○吉田教育長 私のほうから一つ時代に即した質の高い教育を進めていくための教室環境という視点から、ちょっと話題提供ということで、今後のそういう施策の方向性を占うものとしてお話をさせていただきたいのですけれども、今回次期の学習指導要領改訂に向けて、中教審の特別部会で審議のまとめという素案が出されたのですけれども、これはやがて審議まとめということになって、それがもとになって、いわゆる次期学習指導要領が改訂されていくわけですが、そのもとになる案というふうに考えても、とらえてもいいと思うのですけれども、その中でプログラミング教育というのが新聞にも取り沙汰されていきましたけれども、出てまいりました。

これは、いわゆる高校の情報1というところで、コンピューター言語でもってプログラムをつくって、自分の意図するようにコンピューターを動かすと。ロボットなんか考えるとわかりやすいのですけれども、そういうのをプログラミングと、こう言っているのですが、そのプログラミングを高校の情報1の中で必修化を今度すると。中学校では、技術科の中でそのプログラミングを内容として扱おうと。さらには、小学校でプログラミングを実際にやるというのはちょっと難しいのだろうと思うのですが、いわゆるプログラミング的思考という、そういうのを育ていかなければいけないという考え方ですよ、要は。

そういう内容のことが、例えばプログラミング的思考を育むということを教科と関連づけて内容に盛り込もうというような動きが、この審議まとめの中に見られておりますので、子供たちがコンピューターを使って何かを、生活の一部としてそれを使っていくということは、今後ますますそういう機会が増大していくだろうということが予想される中で、こういった能力をつけていくことが大事なのだという趣旨で、ここに入れられたというふうに私は理解しているのですが、そういう中でやっぱり情報機器を今後質の高い環境、時代に即した質の高い教育環境を整備していくという中では、こういう情報

機器を取り入れていくということはやらなければいけない、進めていかなければいけないことというふうに私自身は捉えています。例えば電子黒板一つとっても、今プロジェクター使って、黒板にそのままコンピューターで処理した画像が、文字が書けていく、書けるといふ、従来の電子黒板使う必要なくて、プロジェクターを使ってそれでやれるというようなものができてきています。そういうように情報機器の導入に際しては技術革新が日進月歩であるために、なかなかそれを使いこなして、あるいはそれに見合うような教材を開発してというのが追いついていかないの、非常に難しい状況にはあるのですけれども、試験的に取り入れるか何かして、やっぱりそういった環境を常に整えていかなければ今後いけないかなというふうに考えているところです。

今、そういういわゆる教育環境については、市長さんに大変ご理解いただいて、非常に充実しているところなのですけれども、さらに充実させていかなければいけないなというふうに考えているところですので、その辺についてもお願いできればいいかなというふうに思っています。

私もちょっと、このプログラミング教育なんていうのがいきなり出てきてしまったものですから、いきなりでもそれは認識甘いのだと言われてしまえばそれまでなのですけれども、先ほど言った経済格差への対応も含めて、やっぱりこういう質の高い、時代に即した教育環境を整備していくというのも、これも一つ大きな課題であるというふうに捉えておりますので、どうぞよろしく。何か補足ある。

○小林俊副参事 おかげさまで、50インチの大型テレビと、それからパソコンの組み合わせのセットというのを、各学校フロアに1台ずつ置かせていただいています。これらの導入当初は、やはり先生方も使い方が少しわからなかったということもありましたが、今は各学校で先生方が引っ張りだことなっています。フロアに1台というと、三、四教室に1台という割合なので、そこを今調整して使っていただいているところです。それを今後は、できれば各教室に1セットあると先生が使えると考えていましたが、そうしましたら技術革新がめざましくプロジェクターを黒板の前につけることで同じ機能が全部できてしまうようになっていきます。そういった方向にいずれ持っていければ、黒板と新たなものが組み合わせられた授業が展開できると考えております。

例えば、図形の授業ですとか、それから理科などで実物を見るのが一番いいのですけれども、なかなか火山の噴火などを見るわけにはいきません。また、天体なども有効だと思っておりますので、そういったものも市長等のご協力をいただきながら整備していけたらありがたいと思っております。

○高橋市長 今コンピュータールームというのは、各学校、中学校にあるのでしょうか。

- 小林俊副参事 小学校も中学校も40台ずつ置かれています。
- 高橋市長 40台ずつね。
- 小林俊副参事 はい。
- 高橋市長 授業に組み入れてやっているわけでしょう。
- 小林俊副参事 そうですね。コンピュータールームですと、どっちかというところコンピューターの使い方を学んだり、1人に1台ずつありますので、何か作成する、資料を作成するというところで使います。以前はそれがメインだったのですが、今は教室の中でコンピューターを使って、今まで先生が黒板とチョークでやっていた授業を、さらにもっと発展させわかりやすくしています。
- 今では先生方がタブレットを持っていて、子供がいいノートを書いていたときやすばらしい考え方を示していたときに、以前は教室の前に持って行って映していたのですが、その場で映すと、大型テレビにそれが映って、「今〇〇さんはこういうふうに考えていますよ、ちょっと発表してくれる？」なんていう形になっています。さらに子どもがタブレットを使って発表するなどそういった形でのさまざまな活用を考えていきたいと思います。
- 高橋市長 今ゲームが先行してしまっているからな。授業もゲーム感覚で教えるような方向になっているのでしょう。
- 小林俊副参事 まだそのような状況ではないですね。1人1台タブレットがあると、そういうふうになりそうですけれども、漢字とか計算とかは。まだそこまでいっていないので、むしろみんなで1つの端末を囲み4人か5人で頭を寄せて考えて話し合うという方向を越谷市は目指しているんで、そういう方に向けていければと思います。
- 高橋市長 我々は追いついていけないな。うちの孫も中2でいるのだけれども、タブレットをもう駆使してしまうよ。わからないときは孫に聞いている。
- 吉田教育長 だから、私は言うのですけれども、寿司屋へ行ったって今、子供はこうやってやっています。だから、そのぐらい日常生活の中に入り込んできていますので、これはやっぱりきちんと使い方、モラルも含めてですけれども、教えていかなければいけないというふうに思います。
- 高橋市長 義務教育でも、そこまでやらなくてはいけないかね。
- 吉田教育長 義務教育だからこそ、やらなければいけない。
- 高橋市長 いや、本当にどんどん、どんどん先へ先へと行ってしまって、実際についていけないのかしら、みんな。
- 住田委員長 先生が大変なのです、本当に。研修をよっぽどうまくやっていただかない

と。

○吉田教育長 導入はし始めてきているのですけれども、例えば役所でもそうですけれども、企業の中にパソコンを導入したとか、生活の中にそういうのが入り込んだというような状況の中で考えたときに、教育界にどれほどICT機器が入り込んできているかというと、これはかなりそういう意味ではおくれてきているというふうに思います。教材開発であるとか、そういう先生方の研修も含めて、あるいはソフトの開発等も含めて、さっき言ったように技術革新になかなか追いついていけない。しかも目覚ましいですから、すぐ古くなってしまうというようなことがあって、なかなか現場にそれをすぐ導入していけない。役所に勤めている職員の机の上にパソコンがない机は多分ないと思うのですが、そのぐらい社会では必需品になってきている中で、教育界でそれを駆使していくというところまでにはまだ至っていないというのが現状かなというふうに思います。

では、道具だけ入れればいいのかという話になりますので、これは並行して進めていかなければいけないと思いますけれども、決して取り入れ過ぎていくというふうには私自身は捉えておりません。

○高橋市長 今、中学生でスマホだのを持っているのはどのくらいいるのだろう。

○岡本課長 大体7割ぐらい。

○高橋市長 7割持っている。

○岡本課長 早いお子さんですと、小学校3年生ぐらいから買って、いろいろやっているお子さんもいらっしゃるということです。

○高橋市長 ゲームや何かから入っていくのだけれどもな。

○小林俊副参事 ですから、もう今の小学生世代にとっては、デジタルネイティブなんていう言葉があるようですが、生まれたときからスマートフォンが手元にあるお子さんたちです。若手の教員もスマートフォンが、自分が中学生ぐらいのときに出てきたという人たちもいます。

○吉田教育長 だから、企業によってもパソコンが使えなくてやめていってしまった職員もいるなんていう話も聞きますので、いつときは負担になるかもしれないけれども、将来的にはそれは負担軽減に必ずやつながっていくというふうに思っています。人工知能が入っていったら、ひょっとしたら人がいなくてもいいみたいな、そういうふうな方向で教育を進めていくというのは、私はないというふうには思っているのですけれども、負担軽減にもつながっていくような方向で導入を図っていくという必要もあるということですかね。

○高橋市長 無限に広がってってしまうのだよね。

- 吉田教育長 どこまで開発が進むのかというところは、見えないところありますね。
- 高橋市長 一方では公平な、みんなが習得できるような教育をしろと言うのでしょうか。片方では先端技術を進めるような話ではないの。だから、どこまで義務教育として、レベルとして教えたらいいのだろうかなど。
- 吉田教育長 今そういうところで、いわゆるパソコンやそういう情報機器の導入に関して県とか市とかの格差が出てきているではないですか。だから、やっぱり国のほうで、もう少し手厚くそういう環境整備についても考えていかなければいけない。できればひもつきの地方財政措置でもやっていただけると、私としてはありがたいのですけれども、そういうのも話題になっていますね。
- 高橋市長 これから乗りおくれられないように。
- 吉田教育長 あれ国家戦略みたいのを出しているのだよな。
- 小林俊副参事 出していますけれども。
- 吉田教育長 こういうふうにしていきたいという。
- 小林俊副参事 3.6人に1台ということで、タブレットの端末を配付していきたい。また、進んでいるところは、もう1人1台持っていてというところもありますので、本市としては1人1台はまだ難しい状況なので、学校に40台ぐらいというのを当面の目標に、いろいろな活用の仕方をしていこうというふうに考えています。
- 高橋市長 教育界もどんどん先端に行くような思考というのはみんな持っているのでしょうけれども、専門家は専門家的にどうやって教育の現場で生かしていけるかということをよく考えているのだからけれども。
- 吉田教育長 やっぱり子供が将来生きていく社会がどうなっているのかというところをきちんと見定めて、今どんな力をつけなければいけないのかというのはやっぱり考えていかなければいけないというふうに思っているのですが。
- 高橋市長 これは大変なことだ。ただ機器をそろえるだけではなくて、先生が言ったようにやっぱり指導者、教員の質の向上、指導能力も高めていかなくてはいけないしね。
- 小林俊副参事 そうですね。こここのところずっと先生方の、本市独自で5段階の教員の達成、パソコンがどう使えるかという調査をしています。平成22年の段階では、ちゃんと使えると答えた教員が72%ぐらいだったのですが、今は87%にもう少しで届くというところまで来ています。これは、やはり導入したことで使えるようになった方が非常に多いですね。特に大型テレビとパソコンの組み合わせというのは、先ほども申しましたが、隣の教室で使っていると、「ああ、こういうふうにするのね」と言って、その先生のアイデアでまた授業が展開していきます。このように何人か使う方がいると一気に使え

る先生がふえるというような効果が見えていますので、センターとしては研修会とか、あるいは指導主事が直接行って指導するということも含めて、先生方の指導力向上を図っているところです。確かに市長さんおっしゃるとおり、先生方に身につけていってもらわないといけないと思います。

I C T機器を使うスキルは、年齢には余り関係なさそうですね。当初は年齢に関係あるかなと思ったのです。年齢の高い先生のほうが苦手かなと思ったのですけれども、やはり意欲が高まって、便利な道具だと思った先生方すごく使ってくださるので、そういった意味でもいい環境を整えていけたらなと思っています。

○高橋市長 機器をそろえれば、それなりに先生もマスターしてくるか。

○小林俊副参事 そうですね。意外とそういう傾向があります。

○高橋市長 理屈ではないからな。実際に使っていけば、だんだんと奥へ奥へと入っていくから、意欲が湧いてくるから。

○小林俊副参事 そうですね。昔のパソコンほど難しくなくなりましたので、技術革新で。昔は何かプログラムができないとだめとか、そういうことありましたけれども、今指一本で使えればいいという発想になっていますから、そういう点でも随分違ってきていると思います。

○吉田教育長 便利な道具として使いこなせれば、かなり有効だということですよ。

○小林俊副参事 そうですね、はい。

○吉田教育長 その辺が使いこなせるまでになるまでの間、どういうふうに指導力を高めたり、あるいはそういう使えるような教材を開発したりしていかなければいけないかということが課題になってくるね。

○小林俊副参事 課題だと思います、はい。

○高橋市長 おくれないようにやりましょう。越谷がおくれたと言われないように。

○司会 ほかに何か皆さんのほうからご意見ございますか。

○高橋市長 いろいろ思いがあるでしょう。

○司会 進藤委員さん、荒木委員さん、何かありましたらぜひお願いします。

○進藤委員 では、今の施設の問題ですけれども、直近の話としてエアコンのお話になってくると思うのですけれども、多分現場の生徒さんにしてみると、一番楽しみにしていることではないかなと思います。一応予定としては来年の9月には導入される計画のようで、近隣の例えば草加市さんであったり春日部市さんには、ちょっと先を越されてしまったようですけれども、やはり先端技術も結構ですけれども、もう少し一般的な話として、いい環境を整えていただくということと、あと今回の重点施策の中に、エアコン

と並行してトイレの洋式化ということもうたわれていますけれども、やはり最近のお子さん方はご自宅のトイレもほとんど洋式で、それこそ生まれたときから洋式を使っておられるので、なかなか学校で一般的な和式のお手洗いというのは使いづらいというところもあるので、エアコンに関してはP F I方式を使って一気にぼっと入るようですけれども、トイレのほうは徐々にということなので、またお金の話をして恐縮なのですけれども、その辺はぜひご配慮いただいて、少しずつでも環境を整えていただけたらありがたいかなと思っています。

○吉田教育長 これは市長さんのお考えを代弁するようであれなのですけれども、市長さんはいわゆるエアコンの導入であるとかトイレ洋式化については、かなり積極的に働きかけをしていただいて、我々としても助かっているのですが、何せ財政という大きな障壁があるものですから、この辺は国の補助金の制度なんかもうまく活用して、今後進めていければというふうに思っているところですが。

○高橋市長 草加だ春日部だというのは、ぱぱっと導入してしまってできてしまって、何でおたくではできてしまうのだろうかと思ったりも考えたときもあるのですよ。やっぱり越谷は学校数が多いから、どうしても一気にやるか3年間でやるかという、そういう検討から始まって、やっぱり進めていくかで、大分事務のほうでも、担当のほうでも四苦八苦したようで、結果的にはP F Iでやろうと。実施は1年おくれますけれども、一気に45校やりましょうと、こういうことで進めていくことになりましたので、ひとつそこはご理解いただきたい。

あとトイレも、とにかく教育委員会としては洋式化するのに、せっかくだから便器をかえようとか、全体をきれいにこの際だからやりたいという意向はあったようだけれども、私は便器だけ取りかえればいいたろうと言ったのだよ、まずは。要は水も来ているし、周りのいろんなタイル張りだとか何かの壁なんかも、それは直すにこしたことはないのだけれども、まずは一番必要なのは便器をかえればいいたろうと、こう思っているのだけれども、それだけでもなさそうなのだよ。

だから、まずエアコンが先と。それから、トイレについては、今25%か30%ぐらい。

○日下部参事 そうですね。

○高橋市長 あるわけなのだけれども、それでいいということではないから、せめて各階には一定の割合で進めるようお願いしているのだけれどもね。便器だけ取りかえればできるのだろう。

○日下部参事 今、市長のほうからお話をさせていただきましたけれども、現在全体のトイレの洋式化率というのが27.75%ということでございます。従前は、市長のほうからも

お話ございましたように、各フロア1カ所ずつ洋式化を図ってきたと。こういうふうな考え方で、洋便器の改修をしてきたと。こういう考え方では45校備わったわけなので、平成28年度から具体的に市長のほうからもお考えを伺いまして、便器を取りかえることを中心にトイレの洋式化を図っているところでございます。

まずは、やはり低学年用を取りかえるということで、大変予算が厳しいものでございますから、年4校から5校ぐらい実施していきたいと考えておりますけれども、市の財政力に応じて、その対象校を今後増やしていきたいというふうに考えております。まずは低学年、1年生、続いて2年生というような形で、中学生のほうはちょっと先になるかわかりませんが、基本的には市長が冒頭で申し上げましたように、年次計画で計画的に実施をしてまいりたいと考えておりますので、ご理解いただければと。よろしく願いします。

- 吉田教育長 一番のあれは洋式化というだけでなく、においでですかね。その辺のところも含めてというようなことを考えると、湿式と乾式があって、今は湿式のほうが。
- 日下部参事 そうですね。ほとんど湿式です。
- 吉田教育長 これ乾式にするとすると、便器だけというわけにいかないというところもあって、ちょっとそういうお話をさせていただいたと。
- 高橋市長 行き着くところは予算になってしまうので、とにかくやるべきことがたくさんあるものだから、教育施設もなのだけれども、大沢地区センターも大分延ばしてしまっていて、もういつできるのだと会合のたびに言われてしまうのですけれども、大沢だけではないからね。その次はもう大袋が控えているわけだから、庁舎も第3庁舎はできたけれども、本庁舎はいつやるのだと。大分この前の議会で、くるくる変わるなど言われたのだけれども、変わっているわけではないのだけれども、実施について方策を考えているのであって、できないと言ったためしはないのだけれども、とにかく庁舎も建てないと。いつ本当に、また地震も来ないとは限らないし、建てかえる前に来られたら、それこそまた以前の時のようなことになるし、それ以前に役所にいる職員をはじめ、来庁した市民にけがでもあったら、もうそれだけでも言われてしまうからね。とにかく計画的にやりますと言うしか言えないのですけれどもね。
- 吉田教育長 近隣の教育長さんなんか聞いても、どこもやっぱり同じ悩み抱えていて、そのことが財政上のネックになっていて苦しんでいるという話を聞きます。越谷市は潤っているからいいではないかと言われるんですが、そんなことはないと言っているのですけれども、大変ですよ、どこもね。
- 高橋市長 これだけの躯体が回っているから、もういわゆる経常的な経費というのは決

まっけてしまっているから、投資的な経費だとか何かというのは、やっぱりもう1,000億近い一般会計になってきていますけれども、やっぱり投資的なものについては、そう簡単には出ないです。いつも恒常的な経常経費で固まってしまうからね。

○吉田教育長 国のほうでも社会保障関係費が増大して、そういう教育関係とかその他の部門について自由に使える金というのは、大型予算はつくったけれども、ないんだよということをよく説明されて。

○高橋市長 もう越谷市の予算だって49%が民生費で。

○吉田教育長 そのぐらいみたいですね。

○高橋市長 全体予算の半分、民生費がもう全体の半分になってしまう。市税のほとんどだよな。

○吉田教育長 そうですね。

○高橋市長 市税も400億から超えているのだけれども、民生費がね。時代の流れとはいえ、やっぱりそういう経費が待ったなしだからね。赤字決算出せないし、国保を初め介護保険だとか足りないで、保険料もそうそう上げられないでしょう。結局赤字だから、その分一般会計から繰り出すような形になると。それは私どもの役目ですから、やっていきますけれども。

○司会 ほかに何かございますでしょうか。

○高橋市長 荒木先生は。

○荒木委員 先ほどのICTの活用の中でスマホの話がありましたけれども、学校現場で中学校の生徒の手によるスマホ、携帯の約束事というのを作成に向けて検討を重ねていて、それは生徒たちがみんなでルールをつくるということで、とてもいいことだと思っております。

生き生きと誰もが夢に向かって輝くために、大人も子供も人の心と体を傷つけてはいけないということをはっきりと言うことが大事だと思いますし、そういう心の教育というのが大事だなと思っております。

○高橋市長 表には出ていないけれども、そういうメールや何かで問題がなくはないでしょう。

○吉田教育長 そうですね。やはりそういったことは。

○高橋市長 それをチェックする体制というのはどの程度までできているのかな。

○吉田教育長 それは指導課のほうでやっているのですか。

○岡本課長 今、外部委託という形で検索をかけるような形にしています。例えばブログ、子供たちが書き込んだりしたもの、それからツイッターなどに書き込んだものもそんな

のですが、キーワードを決めておきまして、個人情報が出ているような場合ですとか、あとは人を傷つけるようなワードが出ていた場合には、例えば越谷の岡本君がそういうのを書き込んでいるようだから、それを学校を通じて指導してくださいというような形で連絡が来たりというような形で、平成27年度でそれが検索をしてヒットしたものが、大体6万件ございます。ですから、その中で非常に注意をしなければいけないというような数はぐっと減っておりますので、そういった意味では効果があるかなというふうに考えています。

今一番課題になっているのは、その検索に載ってこないラインと言われる子供の中だけのものについては、そういった検索でヒットしません。ただ、そういう検索をしているのだということをお子供たちにも機会あるごとに伝えてある状況から、やはりそういったトラブルは徐々に減ってきている。別の形での子供たちから集めている生徒指導に関する情報等からすると、そのラインのトラブルも少しずつ減ってきているという実例はございます。これは子供たち自身の気持ちの問題、モラルの問題等をやはり耕していかなければいけないことだと思っておりますので、そんなのもありまして、今ございましたとおり子供たちの中で、中学生ですけれども、生徒の手によるルールづくりというものをしておりまして、12月を目途に最終的な完成を目指しているところです。

○吉田教育長 これは、単に上からだめと規則をつくったのでは、個人の保有率もかなり高いですし、自分の部屋に入って使っていないのはわからないですので、子供自身あるいは家庭でそういうところを考えていっていただかなければいけない。家庭でということでは、保護者対象、保護者向けのモラル教育みたいなのをこの間実施したんだよね。していただいたところなんだよね。

○小林俊副参事 それは、全ての学校で保護者対象のモラル教育を、教育センターの指導主事が行ったり、あるいは県警のサイバー対策室の方に来ていただいたりと、専門家を呼んで現在やっていただいています。また、生徒対象のもやっていますので、両面で行っています。教育センターでは研修という形で支援していますけれども、指導課では子供たちの希望でルールをつくるという形での取り組みをしています。

○吉田教育長 いじめの防止対策等にかかわっている会議の中でも、その取り組み、今子供たちにルールを決めさせるというのは、非常に好評だったんですが、あわせてこれは児童会とか生徒会の一部の人間だろうというような話もあったのですけれども、実際のところはクラスに返していますので、一人ひとりが考えられるような流れの中でルールづくりをするということで、時間をかけてやっているというところですので、そういったのがどれほどの効果になってあらわれてくるのか、期待はしているところなのですけ

れども。

- 高橋市長 教育委員会、越谷市としては、いわゆるチェック体制というのはとっているの、サイバー検索。
- 吉田教育長 そうですね、それは指導課のほうで。
- 岡本課長 いま一度申し上げます。ネットパトロールという形をとっております。先ほど申しましたように、27年度に大体5万9,133件検索をしていただいて、先ほど言ったキーワードの中で、これは各学校で確認をしたほうがいいのではないですかというふうに言っていたのが約1%、562件です。ただし、これはもう必ず削除をお願いしなければだめだというものについては、平成27年度はゼロ件です。ただし、これは削除はネットパトロールを外部委託している業者から、書き込まれている業者に対して言うのですが、この削除というものがなかなか法的にも難しい部分があるようで、削除が実現しない場合もあるように担当の業者からは伺っています。ただ、平成27年度には削除しなければならぬ必要性のあるもの、そのものがゼロ件でしたので、その点は少し安心をしているところではございますが、今後もネットのパトロールをフルに活用していかなければいけないなと思っています。
- 吉田教育長 残念ながら、先ほど何回か繰り返していましたが、全てに網はかけられないというところがありますので、漏れてしまう部分については、やっぱりどうしても家庭とか使用者本人の自覚がないとできないというところもあるので、今言ったような取り組みをしているというところなのではけれども。
- 高橋市長 種別は別なのだろうけれども、学校長を狙って爆破するとか、そんなつまらない予告が来て、あれ何とかならないのかいという、率直に感じるのだけれども、あれなんかも出どころがなかなかつかめないのでしょうか。
- 吉田教育長 よその国にそれがあると、発信する場があると、なかなかたどり着けない。
- 高橋市長 つまらないああいうことで振り回されて、仮にそれが本物というか、本当に事件が起きたら、これは大変だし、甘く見ていたらだめだなんていう、被害が出てからでは、もう言いわけになってしまうしね。何かああいう対策はとれないのかなと思って、専門的なところに期待するしかないのだけれども。
- 吉田教育長 実際に被害を被った、威力業務妨害か、というところを、現実にあったのだというところをつくっておくのも、その後の捕まえてお仕置きをするときには役に立つのかななんて思ってしまったりするのですけれども、聞き流せないなど、いずれにしても。
- 高橋市長 一方ではどんどん機器の機能は進んでいって、それをコントロールできなく

なっているわけだよな。

○吉田教育長 そうですね。

○高橋市長 専門家に期待するしかないのだよな。

○司会 皆さんからご意見をいただいておりますが、ほかに何かございますか。

○吉田教育長 話題出せば切りないけれども、もう大分出たような気がします。

○司会 そうですね。ないようでしたら、最後に市長さんからはじめの議題について。

○高橋市長 教育委員会から冒頭取り組みの経過について説明がありまして、逐一しっかりとやっていただいて、大変私どもも安心するところが多いのですが、まだまだ不足するところもたくさんあると思います。とにかく最終的には予算的な措置になるものですから、だけれども、私は前から言っているのですけれども、予算は私どもがお預かりしているので、教育委員会としてはなかなか予算も要求しがたいというようなことで、あるいは内部でコントロールしている、まずは整理しているということも事実上は知っています。ですが、できるだけよかれと思うものについては、やはり予算要求として出していただきたい。

その中で何が最優先でやっていくべきなのかということについては、予算にも限りがありますから、順位立てをしていくことも、これはもうやむを得ない事柄でございますから、教育委員会のほうで事前に制約することについても余り厳しくやらなくてもいいですから、予算査定のときは教育長を初め各担当部課長の皆さんと率直に議論しながら、その枠内で決めざるを得ませんので、そこでは一定のご容赦をいただくことも多々ありますけれども、必要なのだとできる限り出していただきたい。その必要性をぜひ説明していただきながら、あとは順位立てて物を考えていきたいと思っておりますので、教育委員会のほうではより必要なものは必要だということで、積極的に委員会の中でも議論していただいて出してほしいなど。これは、私は受ける側ですけれども、あえて申し上げておきます。よろしく。

○司会 それでは、今お話しいただきましたけれども、それでは1つ目のテーマについては閉じさせていただきまして、次に進みたいと存じますが、予定した案件は1つ目の以上のみで、次はその他ということでございますが、皆様のほうから何かございますでしょうか。

[発言する人なし]

○司会 もしないようでしたら、事務局のほうから何かありますか。

○事務局 昨年度のこの会議につきましては、大綱となるべき第2期越谷市教育振興基本計画の策定ということを目標に、スケジュールに従いまして会議を進めてまいりました。

が、この計画ができ上がって、今後のスケジュールは決定しておりません。私ども事務局といたしましても、意識を高め、事務をとり行いますが、皆様からもこの会議で話し合うべき事項がございましたら、ぜひ事務局のほうへご案内いただけると幸いです。

以上でございます。

○司会　ということでございますので、よろしく願いをいたします。

それでは、予定した案件は全て終了いたしましたので、これをもちまして本日の総合教育会議を終了いたしたいと存じます。

皆様、どうもありがとうございました。お疲れさまでございました。